

2014年2月6日

国際森林・製紙団体協議会（ICFPA）

植林に関する声明

国際森林製紙団体協議会（ICFPA）は、社会のニーズの高まりに呼応し、広範に亘る森林や土地の形態に応じた持続可能な森林経営および持続可能な林産品生産を遂行して参ります。本声明は、増大する燃料や木質繊維、木材需要に対し、商業植林が持続的な原料供給の役割を担っていることについて支持、主張することを目的としています。

植林活動の重要性

植林は、世界で増大する林産品需要及び環境サービス需要を満たす上で重要な役割を果たしています。植林は、個々の環境や管理手法にもよりますが、以下に掲げる多様な経済的・社会的・環境的便益をもたらします。

- ・ 産業用木材、燃料用木材、非木材林産品、その他残留物を由来とする再生可能な製品の供給。
- ・ 生分解性で、再利用可能、且つ持続可能な森林経営がされた場合には再生可能な林産品の供給。
- ・ 雇用、収入、技術継承、さらには持続的な地域の発展をもたらす森林産業群の創出。その多くは、特に都市部から離れた経済的に恵まれない地域で行われています。
- ・ 土壌劣化・浸食の防止、防風、土壌肥沃化による荒廃地の回復、炭素吸収、水質および大気の浄化。
- ・ 在来の野生動植物や生態系に生息地や保護地（シェルター）をもたらし、生物多様性の保護・増進に貢献。特に荒廃地や森林伐採地での効果は大きいと言えます。
- ・ 熱帯の国々においては植林地以外の森林に対する開発圧力の緩和や土地の有効利用に資する。
- ・ アグロフォレストリー（農林複合経営）、レクリエーション活動、そして多角的利用による追加的収入機会の創出。
- ・ 小規模林業家との連携による社会的包括の推進。（Social inclusion）

植林が、その面積は比較的小規模ですが、様々な計画の下、効率的に製品やサービスを生産することが出来るということは、自然環境に対する人間の圧力を軽減する上においてなくてはならないものになっています。現在、世界の森林面積に占める植林地面積の割合は7%（2億6,400万ha）に過ぎませんが、世界の丸太供給の50%は植林木が占めています。植林は、多くの国において、林産品産業の基盤となっているのです。

効率的な土地利用としての植林

人口の増加や人々の生活水準向上への欲求がもたらす林産品需要の増加に対しては、消費パターンのパラダイムシフトと持続可能な生産システム構築によってしか対応が出来ません。植林は、高品質で再生可能かつリサイクル可能なナチュラル由来製品を比較的短期間で大量生産するための効率的なシステムです。また、多様な土地利用の間での柔軟性ある相互作用を可能にします。

地域の実情やニーズ、期待を担っていることから、適切に管理された植林は地域の発展を促し広範な環境面や経済面・社会的成果をもたらします。植林は、管理計画の綿密さや健全かつ意欲的な管理基準（多品種植林、景観管理、植林地のニーズに合致した在来樹種の生産、効率的な伐採・運搬システムなど）の適用の度合いによって、他の森林経営計画や土地利用と調和・補完し合い、増大する木材繊維や木材及びその他森林製品・サービスに対する需要への対応に重要な役割を果たすことができるのです。

産業界の役割

林産品への需要は今後途上国を中心に、人口増加や所得の増大に伴い拡大することが見込まれます。林産品需要増大への対応において極めて重要になるのが環境効率（eco-efficiency）です。林産品産業界は、環境的・社会的観点を考慮しつつ、原生林の保護や貴重な環境資産を植林地に組み込みながら、持続可能な森林経営の展開に膨大な投資を行ってきました。植林には、企業や研究機関、大学などが長年行ってきた研究・開発活動の成果が組み込まれています。林産品産業は、独自に或いは他の機関と協力し、適切な森林経営を通じて地域社会や土地所有者、植林従事者へ知識・理解の向上のための貴重な技術やノウハウを効果的に提供しています。また同時に、植林はその環境的・社会経済的利益を実現するために、商業的に成功するものでなければなりません。

植林は、持続可能な森林経営や、国連森林フォーラムなどの国際プロセスを押し進める上で極めて大きな役割を果たしています。持続可能な管理が行われている植林地は、同じく持続可能な管理が行われている天然林と同様に、違法に伐採され、環境を破壊する持続可能でない方法で生産された木材と競争しなければなりません。また、木材は現在、金属、プラスチック、コンクリート製品といった再生不可能でエネルギー効率の低い素材とも競争しています。自然界で生み出され、生分解性、再生可能な木材に比べ、これらの素材の環境フットプリント（負荷）は、遥かに大きいものです。

植林の将来展望

- ・ 植林は熱帯の国々の天然林に対する圧力軽減に重要な役割を果たしています。モデル予測では、森林破壊をなくしつつ林産品需要を満たしていくためには、2050年までに植林地面積を現在より2億5,000万ha拡大する必要があります。

- ・ 植林は、今後も世界的な燃料や木質繊維、木材需要を満たすために重要な役割を担っていくこと、さらには荒廃地や伐採地の修復により、周辺地域の生態系維持・修復、そして地域社会の権利及び生計を守っていくことが期待されています。
- ・ バイオテクノロジーでは、従来の育種手法または遺伝子組換え技術のいずれかに拘らず生産性の向上、病害虫への耐性・気温への耐性を強化させ、世界的な木材原料供給用の土地面積の縮小に繋ぐことができます。
- ・ 植林地は生態系サービスを提供するだけでなく、その樹木が材木や紙・パルプ、バイオマスエネルギーといった伝統的な産品から、液体バイオ燃料、バイオ化学品、バイオ素材、そして自動車や航空機、防衛機器などの製品に改良素材として利用されるセルロースナノファイバー、セルロースナノ結晶に至る何千もの品目の原料となります。

* 植林に関する主要データ（資料：FAO 森林資源評価 2010、Indufor）

- ・ 世界の土地面積—13,064 百万 ha
- ・ 世界の森林面積—4,033 百万 ha ¹⁾
- ・ 世界の植林地面積—264 百万 ha ¹⁾
- ・ 植林地の占める割合—森林面積の 7%、土地面積の 2.02%
- ・ 早成産業植林地面積—54.3 百万 ha（植林地面積の 20%）²⁾
- ・ 植林地増加量（新規植林・再植林込み）—約 10 百万 ha/年
- ・ 世界の丸太供給に占める植林木の割合—50% ³⁾

[註]

1) F A O: Planted forests

2) I n d u f o r: Strategic Review on the Future of Forest Plantation 20014/10/4
FSC の依頼による調査。

3) F A O: Global Forest Resource Assessment, 2010